**日本人の倫理観の特徴**2017年7月1日　小林

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | **日本人の倫理観に与えたと思われる影響－各自の研究資料から** | **日本人の倫理観の特徴** |
| **仏教** | * ｴﾙﾄｩｰﾙﾙ号事件に際し日本人が見せたやさしさ・思いやり・自己犠牲。→私見：情けは人の為ならず・因果応報という仏教の考え方の影響なのか。そうであれば、因果応報思想は不正を抑制する要因になるのであろう。
* 仏教が重視する「さとり」は個人的な内心の出来事。日本仏教（特に禅宗）は他人への関心が薄いのか。これに対し、一神教は逆、価値観の押し売り的な性格が強い（ｷﾘｽﾄ教、ｲｽﾗﾑ教）。日本人の倫理観は他人への関心が薄いので「われ関せず」的な態度をとる傾向ありなのか。
* (1)仏教からの影響は、運命に任すという平静な感覚、不可避に対する静かな服従、危険災禍に直面してのｽﾄｲｯｸな沈着、生を賤しみ死に親しむ心。(2)神道からは、国王・祖父母等への忠孝の道。(3)儒教からは、政治的倫理を背景に武士道精神を形成した。→私見：仏教からの影響は、良い面がある一方で、あきらめの良さ（良心への執着が希薄）、大勢に流されやすい性格につながっているのではないか。すなわち、違法と知りつつ大勢に流され付和雷同しやすいのではないか。倫理観は高いのにその倫理観はもろさも持っている。神道の忠孝の道は、権威主義（つべこべ言わず部長の指示に従え！）につながりやすいと思われる。
* 近代仏教学は仏教の倫理性を軽んじてきたが、これを改めるべき。仏教には本来、社会倫理的な実践が大きな要素としてあった。⇒仏教は現代のｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽに影響ありと考えられる。→私見：仏教は6世紀以降国家による保護あり、江戸時代には仏教が強制されたので影響はいろいろとあるはず。そのうえで、課題は、仏教の功&罪・ﾒﾘｯﾄ/ﾃﾞﾒﾘｯﾄを峻別すること。
* (1)日本で戒律を守っている僧侶はいない。日本仏教は常識的な宗教概念からはずれている。
* (2)日本人は「無宗教」と自覚している者が多い。
* 仏教に対する批判として、倫理性が欠如しているという批判あり。凡夫（一般人）は煩悩を持っていてもかまわないと現状肯定することから、向上の契機が失われる。これは、どのようなことをしてもかまわないという無節操、無批判な無倫理主義に陥ることになる。大乗仏教（日本、中台韓ベ）においては、煩悩を静めるために戒律にしたがう。これが仏教の倫理的性格を形づくるが、この倫理は個人単位の倫理であり集団生活のﾙｰﾙではない。「人と人の間」の倫理ではない。
 | 仏教のさとりを追求する姿勢や欲望にしばられない生き方をよしとする考え方は、人間の人格形成につながっているように思われる。これはルール遵守に対する倫理観（コンプライアンス意識）にプラスの影響を与えている可能性はあるが、これまでの研究では不明。その一方で、コンプライアンス意識に関する限りにおいては、仏教からの影響はネガティブな面にも表れているように思われる。たとえば、日本人の倫理観の高さは、個人的な満足で終わり、他者のルール違反に対してわれ関せず的な態度をとるのではないか。これは、我執を捨てる・我を張らないことをよしとする考えに通じている。また、われ関せず的な態度は和を尊ぶ考えから合意をいそぐあまりルール違反の意見にも付和雷同する傾向になりやすいのではないか。 |
| **神道** | * 西欧の契約社会に対して、日本の八百万の神と人間は一対一の関係になりにくい、こういう社会をまとめるには性悪説ではだめ、人間はそもそも信頼できると思うしかない、こういう社会・集団で最悪の行いは信頼を裏切る事。だから内部告発は機能しない。
* 多神教の文化では神という絶対的存在も相対化され、善と悪も相対的なものと考えられている。家庭人と組織人の倫理観が異なる、清濁併せ呑むことが評価される、など。多神教の日本文化の特徴は、ﾃﾞﾒﾘｯﾄとしてポリシーがない、節操がない、メリットとして一つの考えにこだわらない、柔軟な思考。
 | 内部告発が機能しないのは神道の影響があるうえに、農耕文化にもとづくムラ社会の文化の影響も大きいのであろう（排他的な内向きの社会で異分子を排斥、差別する）。さらに、上記のわれ関せず的な倫理観も影響しているのではないか。善悪の相対的な考え方は、倫理・正義について融通がきくことをよしとする日本人の考え方につながっているように思われる（悪も時と場合により必要）。融通がきかないことを石頭やしゃくし定規と言うが、これはネガティブな意味で言われており、逆に清濁併せ呑むことが人格者の一要素になっていたりする。これは、無意識のうちにコンプライアンス意識にマイナスの影響を与えているのではないか。 |
| **武士道** | * 「刀」は自己責任を象徴するものとのこと。日本人は自己責任好きなのだろうか。→私見：最近、自主避難者の帰還は「自己責任」と言ってたたかれた大臣がいたが、確かに武士道の考え方は「自分でやったことの責任は自分でとる」なのであろう。しかし、やむなく自主避難した人の窮状に共感できないのは倫理観の欠如なのであろう。武士道の精神も功&罪あり。発揮のし方を間違えば倫理観を疑われる。武士道にも「武士は相見互い」の精神あり。
* 勇とは義（ただ）しき事をなすこと。卑劣な行動や振る舞いは嫌われる。がまんすることが美徳。その反面、儒教の影響から権威主義的で上位者への服従がよしとされる。
* 武士道の中心は名誉であり、自己の名誉を守るため卑怯なまねはしない。忠義を人倫の最高位にすえたのは日本人だけ。外見的ストイック主義。義を重んじ誠をもって率先垂範・実践する精神。
* 卑怯者、臆病者といわれることを最も恥ずかしいと感じるのは武士道の影響。→私見：これは高い倫理観につながっている一方で、ムラ社会において内部通報を抑制する要因になり（卑怯者）、あるいは不正行為に反対しにくい空気につながっているのではないか（臆病者）。
* 日本開催の日本対韓国の野球の試合で、韓国選手のﾌｧｲﾝﾌﾟﾚｰに対して日本人が盛大な拍手を送ったことに韓国人はびっくりしたとのこと。→私見：武士道の精神か。敵に塩を送る。日本人は敵であっても優れた敵は尊敬してしまう。いさぎよさや卑怯な真似はしないという倫理観にむすびついているのであろう。
* 世間体を守ることが道徳の基盤であり、道徳から外れると体面を失い恥をかくことになる。（ﾍﾞﾈﾃﾞｨｸﾄと同趣旨の恥の文化）
 | 左記を総合的に勘案し、武士道からの主要な影響は以下の四点かと思われる。①上位者への服従、序列を重んじる⇒権威主義におちいりやすい。不正と分かっていても命令に服従してしまう、あるいは命令への服従を強要する。②卑怯・臆病なふるまいを嫌う⇒これはコンプライアンス意識を高める。が、その一方で組織の中で不正行為に反対すると卑怯者・臆病者と見られ、このような他人の評価を気にして不正を見過ごしてしまう傾向がある。③名誉を重んじる、世間体を気にする⇒これはコンプライアンス意識を高める。ただし、個人が組織に埋没していると個人の名誉心は不正に対するブレーキになりにくい（日本人は組織に埋没しやすいのか）。④いさぎよさを重んじる（これは②と③からの派生か）⇒これはフェアプレー精神としてコンプライアンス意識を高めている。ただし、個人が組織に埋没していると個人のいさぎよさは不正に対するブレーキになりにくい。 |
| **恥の文化** | * ﾍﾞﾈﾃﾞｨｸﾄによれば西洋は罪の文化で日本は恥の文化。日本人は恥を恐れて不正をしない。その反面、人の目がない所では不正にはしる傾向あり。（ただし、このﾍﾞﾈﾃﾞｨｸﾄ説には反論あり－下記参照）→私見：ﾍﾞﾈﾃﾞｨｸﾄ説は一部正解だが、武士道等々の倫理観を考慮しておらず、そっちのほうがむしろ主要ではないか。人の目がなくても不正を思い止まる倫理観を持っている。
* (1)ﾍﾞﾈﾃﾞｨｸﾄの日本は恥の文化なので他人の目がないところでは悪事に走る傾向にあるとの見方は画一的過ぎる。恥の文化だけで日本の犯罪率の低さは説明できない。
* (2)日本人の犯罪抑制力は、各自の心の中にやってはいけないという内面的強制力を持っているから。日本人も罪の意識を持っている、つまり他人に迷惑をかけてはいけないという意識。これに対して欧米人の罪の意識はキリスト教の教えに背いたら神から罰を受けるという意識。
* (3)日本人の罪の意識は日常的なしつけで植え付けられる。子どもを押し入れに入れて「なぜ叱られたか考えなさい」と反省をうながし、してはいけない事に自分で気づくようにしむける。これに対して欧米では、お尻をたたいて罰を与える。これは神の代理人として罰を与えている。最近までフランスの学校にはムチが普通にあった。⇒私見：恥の文化は否定されるべきではないと思うが、日本人の倫理観は一つのもので説明しきれないように思う。日本人の倫理観は多層構造なのであろう。
 | 恥の文化は日本人の倫理観の一面を説明するものであるが、日本人の倫理観は仏教や神道、武士道等々の影響がからみあって作られたものなのであろう。日本人は人の目がない所では不正にはしる傾向ありとのﾍﾞﾈﾃﾞｨｸﾄ説は単純すぎる。 |
| **和の文化** | * 日本には、和を以て貴しとなすとの精神が生きている。→私見：和の精神は良いところあり。その反面、合意することを重んじ、違法と思っても反論しない姿勢につながっているのではないか。
* 日本人は人づきあいで他人に合わせる傾向が強い。→私見：これは和の精神か。この性格が違法と知っていても多数意見に付和雷同する態度になるのだろう。
 | 和の文化はコンプライアンス意識に関するかぎりにおいては良い影響を与えているとは思われない。悪い影響としては、合意することを重んじ、違法と思っても反論しない・他人の意見に付和雷同する姿勢につながっているのではないか。 |
| **その他** | * 日本の集団は序列によるタテ社会。序列によって集団を維持する意図が強まる。→私見：これはまさに権威主義におちいる傾向が強いということなのであろう。
* 日本人の精神構造には甘えがあり、甘えの関係にある人どうしでは不正を見逃す。
* D.キーンは日本人の道徳は儒教をベースにしており、一方、司馬は恥やカッコ悪いという美意識が犯罪を抑制しているとの意見。→私見：どっちかではなく、どっちもではないのか。さらに、それ以外もあるのだろう。
* 日本では共同体への献身が美徳として重んじられ、ここから日本的道徳が生まれてくる。日本では、内と外の二重道徳があり、内が固有の内面性に向かって深まらないため、外に対して極端に防衛的にならざるを得ない。こうして体裁・外聞・世間体を重んじる恥の文化が開花し、内面的な良心にいたることがなかった。
* (1)日本人は人間関係をウチとソトに分けて身内の中では甘えの関係にあり、世間に対しては対立し無関心。主体的自我は身内の中に埋没して育ちにくい。自己が違法行為をした場合、身内がどのように思うかが最大の関心事になる。だから、犯罪者は「親に申し訳ない」など身内への謝罪の言葉がまず出てくる。本来、謝罪は被害者におこなうべきなのに。つまり、身内に迷惑をかけたという罪悪感であり、被害者に迷惑をかけたという罪悪感ではない。
* (2)日本人の倫理観は和辻哲郎のいう関係性の倫理。自我が育ちにくい日本では無我の境地が理想とされ、倫理観のよりどころは他者との関係に置かれた。和とは他者との関係であり、これを乱すことに罪悪感を感じる。
* (3)日本人の道徳心を支えてきたのは恥の文化、罪悪感のもとになるのは身内との情緒的結合、これらが希薄になってきた。会社等の集団への帰属意識も希薄化している。主体的自我を持たない人間は罪悪感をともなわない犯行に傾斜していく。
* ウチの人間どうしの連帯感が強化されやすく、その一方でソトの世界に対して関心が薄い。世間の目（世間の評価）は気にするが世間に対して関心が薄い。→私見：これは、会社の仲間どうしでは相手に迷惑をかけない・助け合うなど倫理的な行為につながり（日本企業のﾁｰﾑﾜｰｸ）、その一方で一般消費者=世間に対しては痛みを感じる心が希薄になり非倫理的な行為をおこなってしまう、つまり倫理観のダブルスタンダード。三菱自動車のﾘｺｰﾙ隠し、燃費ﾃﾞｰﾀねつ造などは、これが背景にあるのではないか。他の心理的要因もあるのだろうが。
* 和辻哲郎の人と人の関係における倫理は仏教の縁起の思想から由来しており、縁起とはすべては他に依存しているという考え方。日本人の倫理観は他者に依存しており、他人に見られていなければ悪事をしてもかまわないという倫理観が出てくる。→私見：恥の文化を倫理学的に説明すると他者依存の倫理観ということになるのだろう。これは日本人の倫理観を説明する一つの考え方であることは確かなように思う。ただし、それだけではないのであろう。
* 日本語の特徴である対象依存の自己規定においては、父親が子どもに対して「パパの言う事を聞きなさい」と言う。これは父親が子どもの立場に立ち子どもと同化している。これは相手の気持ちを察する「察しの文化」「思いやりの文化」に通じる。日本人は自分の意見を主張するのが苦手、他人の意見と調和させることが得意。 　→私見：日本人は不正と分かっていても他人の意見に反論するのが苦手のように思われる。心理学でいうところの「同調」におちいりやすい。相手の立場を思いやる、和を乱すことを恐れるためか。
 | タテ社会⇒権威主義におちいる傾向が強い。甘えの関係⇒上司と部下の甘えの関係は軽微な不正を見逃す温床になり、清濁併せ呑むことをよしとする考えはこれを助長するおそれあり。ウチとソトの文化：①内と外の二重道徳⇒上記の善悪の相対的な考え方（悪も時と場合により必要）は、善良な家庭人が組織人としては不正も必要と考えることにつながる。②ウチの人間どうしの連帯感が強化されやすく、その一方でソトの世界に対して関心が薄い。（ムラ社会）⇒内向きの組織がまさにこの状態。顧客・消費者というソトの世界への影響に無頓着。ﾘｺｰﾙ隠し、不正排ガスｿﾌﾄ、消費期限切れ食材などの不祥事の要因になっている。人と人の関係における倫理日本人の倫理観は他者に依存しており、他人に見られていなければ悪事をしてもかまわないという倫理観が出てくる。⇒ﾍﾞﾈﾃﾞｨｸﾄの恥の文化と同趣旨。これは一面の真理はあるが、単純すぎる。日本人の倫理観は、武士道等々の影響を受けている。他人に見られていなければ悪事をしてもかまわないと思っている日本人はほとんどいないはず。「察しの文化」「思いやりの文化」私見：日本語自体が察しの文化。主語・目的語等をぼやかす・省略する、曖昧な表現を多用して相手の「察し」を期待する。「おもてなし」は相手のしてもらいたいことを察してそれをしてあげること。これが思いやり。察し・思いやりは日本の文化の一つの重要な要素ではないか。さらなる研究必要。⇒左記のとおり日本人は自分の意見を主張するのが苦手、他人の意見と調和させることが得意。日本人は不正と分かっていても他人の意見に反論するのが苦手のように思われる。心理学でいうところの「同調」におちいりやすい。相手の立場を思いやる、和を乱すことを恐れるためか。 |